



四九年ぶりに改定され、バージョンアップした民医連綱領。いのちと健康、人権を守ろうと民医連ががんばるおおもとは、綱領に掲げられた理念があります。その実践を紹介する新連載。第一回は、生活困難者を対象に医療費を減免する「無料・低額診療事業」です。高知の潮江診療所を訪ねました。(文・武田力記者)

「いま生きていられるのも岡村さんのおかげです。本当にお世話になりました」
知子さん(仮名・48歳)は岡村啓佐事務長に向かつて深々と頭を下げました。

交通警察員の仕事をしながら、息子の隆司さん(仮名・24歳)を女手ひとつで育ててきました。時期によって週二〜三日しか仕事がないことも。体調も収入も安定せず、家賃を滞納したりと、生活もままなりません。国民健康保険料の納入はどうしても後回しになってしまい、通常の保険証ではなく、有効期間の短い短期保険証を発行されていました。



知子さん

隆司さんはいじめなどが原因で、中学校のころからひきこもりがちに。ぜんそくのほか、痛風や座骨神経痛なども抱えていましたが、医療費を払えないため病院にかかることができませんでした。

昨年八月、隆司さんの尿に血が混じるようになり、「さらに右目が見えない」と言いました。「さらには知子さん。ただごとではないと感じた知子さんは一〇月二〇日、高知市役所に電話で相談。すると市役所は、一〇月一日に無料・低額診療事業を始めたばかりの潮江診療所

を紹介したのでした。

「診療所に電話したら、岡村さんが電停(路面電車の停留所)まで車で迎えに来てくださった。」

隆司さんの血圧を測ったところ、上はなんと二八〇！電停から二〇分ほどの距離を歩いてくること自体、いのかかわる状態でした。高血圧に加え、心不全と腎不全におちいっており、高知生協病院に緊急入院となりました。

高血圧の薬が手放せず、いまでも心配な状態は続きます。

「それでも『病状の悪化と事業のスタートと、すごいタイミングだったね』と息子に話しました」と知子さん。

「もし診療所の助けがなかったら、息子を殺して私も死んでいたかも……」

まさに無料・低額診療事業がいのちを救ったのです。

無料・低額診療事業で

地域の駆け込み寺に

高知・潮江診療所



取材中にも舞い込む相談

事業を開始して一年も経っていませんが、知子さん親子のようにギリギリまでがまんして駆け込んでくる患者は後を絶ちません。

美代子さん(仮名・59歳)もその一人。野外生活を余儀なくされていた美代子さんは、ことし二月、公園でホームレス仲間の「おじさん」に声をかけられて、診療所を知りました。

「三年ほど前から胸にしこりがあった。診療所で診てもらったら「乳がんです」と。「まさか」という感じでした」

腫瘍は三センチもの大きさになっており、すぐに入院、手術に。いまは住まいも決まり、生活保護を受けながら治療を続ける毎日です。

パートで清掃員をしながら生計を立ててきた美代子さんは、時給六〇〇円台の低賃金のため家賃や光熱費を払いきれなくなり、住まいを失ってしまったのでし



美代子さん

た。公園から仕事に通う生活を一年も続けていました。

「なるようにしかならん、と投げやりな気持ちでした。でも「おじさん」が「どこか悪いところはないか」と声をかけてくれて。ほんまにいのちをひろいました」

実はこの「おじさん」、事業を利用して診療所にかかっていた患者さんでした。慢性肝炎、膀胱がんなどの診断を受け、治療を開始した「おじさん」は、公園で顔見知りだった美代子さんを気にかけて、声をかけたのです。

美代子さん宅でお話を聞いている間にも、岡村事務局長の携帯電話が鳴りました。診療所から「足がしびれる」という男性から相談が入った」と。緊急を要すると判断した岡村さんは、診療所へ急行しました。

男性は四〇代、足をひきずっていました。昨年四月まで名古屋市で日雇い警備の仕事をしていましたが、生活の目途が立たず帰郷。高知市でも仕事が見つからず、年金暮らしの父親(80歳)と暮らしています。「早く出て行け」という父親との関係も悪化し、この半年はまともな食事ができなかったといいます。

「一か月前から足がしびれだして……。いまは足の中の血管を針が通っていくように痛みます」と、男性は不安そうな表情。

生活苦からの借金もありました。

「今日すぐに生活保護を申請しましよ。弁護士に相談して自己破産の手続きもしなければ」と岡村さんは話しました。

新聞やテレビを見て次々と

事業を開始した昨年一〇月から五月までの間に、診療所には七〇件近くの相談が寄せられました。うち、四九件に面談し、対応してきました。

事業を利用したのは三八件(五九人)。重篤な患者も多く、一三人が入院、四人ががんを患っていました。

潮江は高知市の中でも高齢化率と生活保護受給率が高い地域。診療所では事業を始める前に、潮江地域の歴史や地理、住民の生活状況などを調べ、現状をつかむ努力をしていました。しかし、地域に広がる貧困の実態は、「想像をはるかに超えていた」と岡村さん。

夜中に半身麻痺を起こしながら、朝になってようやく診療所に相談してきた男性(四〇代)、電気や水道などのライフラインを止められ、凍傷になっていた男性(五〇代)、満足の食事ができず、身長一七〇センチで体重が三五キロまで落ち込んでいた男性(六〇代)もいました。

四歳から一二歳まで三人の子どもと「一家心中も考えた」という五〇代の夫婦も。

員の誇りと確信も深まる

妻が潮江診療所の事業を紹介した新聞記事(「高知新聞」二月二四日付)を目にして、助けを求めてきたのです。

地元の新聞やテレビ、ラジオが取り上げ、相談者は高知市内全域、さらに隣町からも訪れました。九割が「報道で診療所を知った」という「飛び込み」の相談。国保料滞納による資格証明書・短期保険証(一三%)以上に目立つのが、そもそも健康保険の加入手続きをしていない無保険者(六二%)の存在です。

診療所の評判も高まって

事業について、診療所の職員はどう感じているのでしょうか。

駆け込んでくる患者さんの実状は深刻なものも多く、「本当に胸が痛む」と看護師長の岡田艶子さんはいます。一方で、「いのちを助けることができ



内田好彦 所長



観光地・桂浜の近くにもテントで暮らす人がいる

た」よろこびと実感は、働く職員の誇りと確信にもなっています。所長の内田好彦医師は、「よさこい踊りで道の真ん中を通るような快感ですよ」とユーモアたっぷりに語りました。

「ふつうは患者さんがどんなに困っていても、医療費を『まける』なんてできないわけです。法律で禁止されていますから。でも、この事業があれば、堂々と合法的に『無差別平等の医療』を実践できる。医師としてこの上ない喜びです



*診療所が地域のネットワークの中心に*と
子どもたちのために夏休みの無料塾開講を計画している

「よ」
岡田さんも「道ばたで人が倒れていた
ら『助けてあげたいな』って、誰でも思う
ことですよ。でも個人ではなかなかでき
ないこともある。それが仕事でできる」と
笑顔を見せます。

評判が高まり、診療所に初めて来る患
者さんも増えました。「診療所を支えた
い」と、出資金の増加にもつながって
います。事業で減免した医療費は診療所の
負担になりますが、「経営的にも問題は出
ていません。むしろ患者さん、組合員さ
んに支えてもらっている」と内田所長。

「無料・低額診療事業は、民医連の診

職

療所のシンボルですね」と記者がいうと、
一瞬とまどった表情を見せた岡田さん。

「『シンボル』なんていうとまつり上げ

て飾っておくようなイメージですよ。

そうじゃなくて、もっと身近な、患者さ

んのためにできるひとつのこと、という
感じかな」

事業を「ぜひ他の病院・診療所にも広

げたい」と岡田さんは抱負を語りました。

写真・若橋一三

民医連綱領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉
の実現をめざす組織です。

戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受
けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の人
びとが、各地で「民主診療所」をつくりました。
そして1953年、「働くひとびとの医療機関」と
して全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の
切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉
の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に
立った親切でよい医療をすすめ、生活と労働か
ら疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるそ
の時代の社会問題にとりくんできました。また、
共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平
和と民主主義の実現のために運動してきました。

私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団
所有を確立し、民主的運営をめざして活動して
います。

日本国憲法は、国民主権と平和的生存権を謳
い、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得
の成果であり永久に侵すことのできない普遍的
権利と定めています。

私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これ
までの歩みをさらに発展させ、すべての人が等
しく尊重される社会をめざします。

一、人権を尊重し、共同のいとなみとしての医
療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと
健康を守ります

一、地域・職域の人びとと共に、医療機関、福
祉施設などとの連携を強め、安心して住み続
けられるまちづくりをすすめます

一、学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に
努め、地域と共に歩む人間性豊かな専門職を
育成します

一、科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業
所を守り、医療、介護・福祉従事者の生活の
向上と権利の確立をめざします

一、国と企業の責任を明確にし、権利としての
社会保障の実現のためにたたかいます

一、人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政
策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を
守ります

私たちは、この目標を実現するために、多く
の個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、
共同組織と力をあわせて活動します。

2010年2月27日

全日本民主医療機関連合会 第39回定期総会